

第5章 にぎわいと輝きのあるまちづくり

5-1 輝きのあるまち

基本施策

基本的な方向性

5-1-1
農林業の振興



高齢化等により農家数が減少する中、農業の担い手育成・確保が重要となっており、効率的で安定的な農業経営を行えるよう、意欲ある担い手への農地集積を行うとともに、新たな担い手の育成や農業の高収益化に取り組む必要があります。

5-1-2
商工業の振興



商工会と連携し、市内事業者の育成と経営のサポートを行うことで、商工業、サービス業など地域産業の活性化を図ります。
ロードサイドショップによる企業集積や企業の誘致に取り組むとともに、関係機関と連携し、起業支援や働く意欲のある方への就労機会の確保に努めます。

5-2 にぎわいのあるまち

基本施策

基本的な方向性

5-2-1
観光の振興



岩出市への愛着を高め、交流人口や関係人口の増加による地域の活性化につなげるため、本市の歴史、文化、自然、産業等多様な観光資源を活用した観光施策を推進します。
道の駅「ねごろ歴史の丘」を観光拠点として、広域観光における地域間連携を図りながら、観光客の増加に取り組みます。

5-2-2
観光資源の創出



京奈和自動車道紀北西道路及び県道泉佐野岩出線の整備による交通利便性の向上、観光拠点となる道の駅「ねごろ歴史の丘」の完成、根来寺6棟の国重要文化財指定などの好機を活かし、岩出市の観光イメージを確立し、「根来」のブランド化に取り組むことで、観光地としての認知向上と観光消費の拡大を図ります。

5-3 歴史を守り文化をつなぐまち

基本施策

基本的な方向性

5-3-1
文化遺産の
保護・活用



根来寺境内に所在する文化遺産については、関係機関との連携を図りながら、保全・活用に取り組めます。また、地域の文化遺産についても保護・活用を図り、文化遺産の調査等で得られた資料を適切に保存・整理し、公開できるよう努めます。

5-3-2
歴史・伝統文化
の振興



市民が「ふるさと岩出」に愛着と誇りが持てるよう、歴史・伝統文化の振興に取り組めます。岩出市の伝統文化である「根来の子守唄」や「根来塗」等の保存と、後継者の育成に努めるとともに、これらの価値や魅力を発信する取組を行っていきます。

5-3-3
国際化の推進



近年の外国人観光客や外国人住民の増加により、日常生活において市民と外国人が関わる機会の増加が予想されることから、国際交流活動の推進、多文化共生社会を担う人材の育成に努めることで、お互いを認め合い暮らしやすいまちづくりに取り組めます。

総合戦略による取組

基本戦略1 人が集う、魅力あるまち

基本戦略4 産業振興による活力あるまち

農業分野については関係機関との連携により、担い手の育成・確保を図るとともに特産品化・ブランド化による高収益化に取り組めます。

産業振興については、優良企業の誘致や商工会、金融機関等との連携による経営課題解決、成長支援等地元企業の活性化や創業支援などにより雇用を創出するとともに、働きやすい環境づくりの推進に取り組めます。

また、広域幹線道路の整備に伴う交通の利便性を最大限に活用して、他府県・他市町村からの交流人口を増加させるため、根来寺や旧和歌山県議会議事堂、道の駅「ねごろ歴史の丘」を中心とした観光資源の魅力発信に取り組むとともに、「見る・食べる・遊ぶ」を楽しんでいただける市内環境整備に取り組めます。

1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-1-1 農林業の振興

本市の状況

●平成 28 年 4 月に改正「農業委員会等に関する法律」が施行され、農業委員会の重点業務が担い手への農地等の利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など農地利用の最適化の推進であることが明確化されました。

●農地は、農作物の生産という本来の機能以外にも、洪水の防止、自然環境の保全、地下水涵養、良好な景観の形成など多面的な機能を持ち、市民の住環境や教育環境の充実などにも大きく寄与しています。この農地の持つ多面的機能を維持していくためにも、農地の保全や活用を進めていく必要があります。

●総農家数が減少する中、平成 27 年の販売農家数は、493 戸となっています。また、農業就業者も減少傾向にあり、農業の担い手の減少とともに、高齢化が進んでいます。農業の抱える課題に対応するためには農業の高収益化や新たな担い手の育成などに向けた取り組みが必要となります。

●農業就業者の高齢化や担い手不足により、生産性の低下や遊休農地の増加が懸念されます。農業者の育成・支援をはじめ、希望者の就農に向けた相談支援や小規模な農家の経営基盤の強化や農地等の集積など、新規参入を可能にする支援体制づくりに取り組んでいます。

●JA 紀の里や農業団体などと連携を深め、道の駅「根来さくらの里」の活用など地元農産物の収益確保に取り組んでいます。

●農業就業者の創意工夫と地域の特性を活かして、農業の高収益化を図る必要があります。JA 紀の里と連携して岩出市産の安全・安心な農産物のブランド化を図るとともに、商工・観光産業とも連携し、農業の 6 次産業化に取り組んでいます。

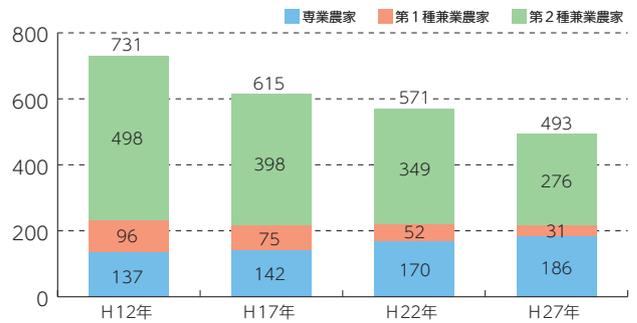
●優良農地の維持や農作業の効率化を図るため、農業用水施設の維持・更新、農道の拡幅や舗装整備等の農業基盤の整備に取り組んでいます。

●農業用排水路は農業生産の維持、農業経営の安定を図るだけでなく、農地や農業用施設の防災面において重要な機能を担うことから、国営総合農地防災事業の積極的な支援に努めています。

●イノシシ、アライグマ等を中心に農作物への被害が増加する中、猟友会等の関係団体と連携し、捕獲、防護柵の設置により、農作物への被害軽減に取り組んでいます。

●森林を大切な資源として管理し守っていくため、平成 31 年 4 月に森林経営管理法が施行され、林業経営の効率化と森林管理の適正化が求められています。

販売農家数の推移 (単位: 戸)



資料: 農林水産省「農林業センサス」



主な取組方針

取組方針 1 農地等の保全

- 意欲ある担い手への農地集積や遊休農地の発生防止に取り組みます。
- 農道や水路の整備をすることで農地の保全及び農業用水路の確保を図ります。

取組方針 2 農林業経営基盤の充実

- 関係機関と連携し、農産物のブランド化と販売力の強化を図ります。
- 農産物の安全確保と道の駅「根来さくらの里」を活用した販売体制の強化に取り組みます。
- 鳥獣被害から農作物を守り、農業経営の安定化を図ります。
- 既設林道の保全・管理に取り組むとともに、県や関係団体と協力し、紀州材の需要拡大を促進します。

取組方針 3 担い手の育成と確保

- 農業の担い手の育成・確保するために、相談から就農、経営定着まで支援に努めます。
- 認定農業者などの中心経営体を中心とした効率的かつ安定的な経営体の育成に取り組みます。

総合戦略による取組

基本戦略 4 産業振興による活力あるまち

○施策 農業の振興

JA 紀の里等との連携により生産拡大、販売促進、担い手の育成・確保を図ります。
関係機関との連携により、農産物の高付加価値を図り、特産品化やブランド化を促進します。
市オリジナルグルメ商品等の材料となる農産物の生産に取り組みます。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値	
		(令和7年度)	(令和12年度)
農林業の振興に満足している市民の割合	38.4%	66.4%	74.3%
農用地利用集積面積(年間)	13ha	13ha	13ha
総合戦略 KPI	道の駅「根来さくらの里」の年間売上	208,978 千円	220,000 千円
	奨励作物の作付面積	133.5a	134a

SDGsの目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想	平成26年度～
鳥獣被害防止計画	令和元年度～令和4年度
農業振興地域整備計画	平成2年度～
森林整備計画	平成29年度～令和8年度

1 住んでよかったです
思えるまちづくり

2 安全で安心して
暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれる
まちづくり

4 元気で健康な
まちづくり

5 にぎわいと
輝きのあふれるまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-1-2 商工業の振興

本市の状況

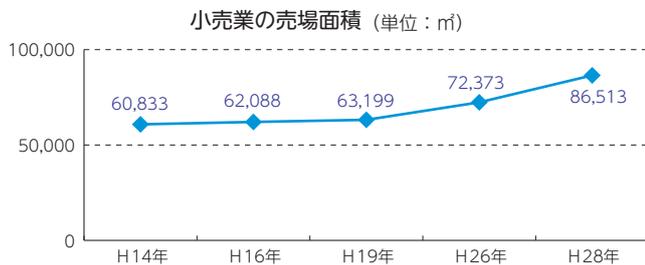
第5章 にぎわいと輝きのあるまはるまはる

- 市内主要幹線道路沿線においてロードサイドショップの出店が進み、小売業における売場面積は増加しています。一方、民営事業所数及び事業所従業員数については平成26年までは増加傾向にありましたが、平成28年は概ね横ばいとなっています。
- 人口減少による地域経済の縮小が見込まれる中、持続可能な経済成長を促進するため、先端技術の導入や生産性向上への取組などを支援し、地域経済の基盤となる産業育成に努めています。
- 商工業者の経営支援や地域活性化に取り組む商工会の運営支援を行うとともに、商工会や金融機関などと連携して、様々な課題を抱える市内事業者に対する総合的な支援体制の構築・拡充に取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている市内事業者に対し、国・県と連携して事業の継続や回復に努めています。
- ロードサイドショップを中心に大型店舗やチェーン店が出店し、市民の生活を支えています。一方、地元商店は減少しているため、地域に根ざした商店の活性化に取り組んでいます。



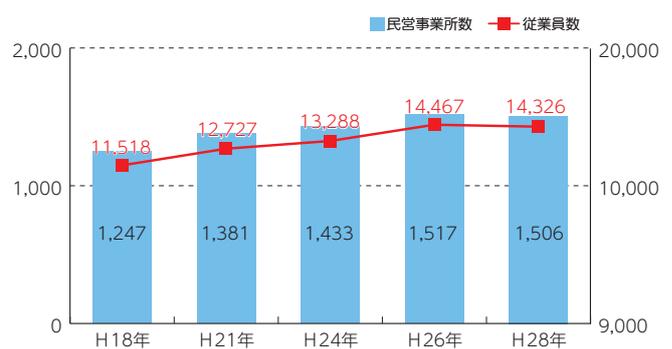
小売業の売場面積 (単位：㎡)

	H14年	H16年	H19年	H26年	H28年
売場面積	60,833	62,088	63,199	72,373	86,513



資料：経済産業省「商業統計」、総務省「経済センサス」

民営事業所数・従業員数の推移 (単位：事業所・人)



資料：総務省「事業所・企業統計」・「経済センサス」

- 根来寺など本市の観光資源を積極的に活かして、観光産業と連携した商工業の魅力を高める取り組みを進める必要があります。
- 市内事業者の活動を促すため、観光イベントへの呼びかけなど地域事業所の活性化に取り組んでいます。
- 関西国際空港から近く、国道・主要県道・京奈和自動車道岩出根来インターチェンジを有する立地を活かして、製造業や物流分野の企業誘致を実施しています。引き続き県との連携を図りながら、地域経済の活性化、雇用創出につながる優良企業の誘致に取り組めます。
- 地域経済の活力を高めるため、商工会、金融機関等と連携して、創業のきっかけづくりから創業後の起業支援まで行うことで、創業しやすい環境づくりに取り組んでいます。
- 若者、女性、高齢者、障害者等多様な人材がその能力を発揮できるよう、和歌山公共職業安定所（ハローワーク）等の関係機関と連携した雇用促進に取り組んでいます。



主な取組方針

取組方針 1 商工業・サービス業の活性化

- 市内商工業者の安定経営のため、経営相談や資金調達の支援などに取り組む商工会への支援を行います。
- 商工会と連携し、プレミアム付き商品券の発行など地域産業の活性化に取り組みます。
- 商工会等と連携して、創業支援セミナーを開催し、経営・財務・人材育成・販路開拓など創業に必要な知識習得を支援します。
- 商工会にワンストップ相談窓口を設置し、経営指導員が創業者に効果的な支援を行います。

取組方針 2 雇用の確保

- 和歌山公共職業安定所（ハローワーク）等関係機関と連携し、就労機会の提供に取り組みます。
- アクセス性の良さを活かした企業誘致や事業拡大に伴う設備投資への支援に取り組みます。

総合戦略による取組

基本戦略 4 産業振興による活力あるまち

○施策 地元企業の活性化

京奈和自動車道岩出根来インターチェンジ周辺を中心として多様な企業の誘致を促進します。県と連携を図り、情報提供や税優遇や奨励金等の支援による企業誘致を推進することで、地域経済の活性化と雇用創出に取り組めます。

商工会、金融機関との連携により、創業支援や経営課題解決、成長支援などの地元企業の活性化支援に取り組めます。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値	
		(令和7年度)	(令和12年度)
企業の誘致に満足している市民の割合	11.1%	28.8%	37.2%
事業所数	1,506 事業所 (H28)	1,528 事業所	1,550 事業所
商工会会員数	572 事業所	600 事業所	620 事業所
総合戦略 KPI	誘致企業数	0 社	1 社
	創業セミナー開催数	8 回	8 回
	金融機関との連携件数	21 件	21 件

SDGs の目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
産業振興促進計画	令和2年度～令和6年度
創業支援事業計画	平成27年度～令和6年度

1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのあるまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-2-1 観光の振興

本市の状況

第5章 にごわいと輝きのあるまちづくり

- 交流人口の増加による地域活性化を図るため、観光振興を重要施策と位置づけ、平成 26 年度から旧和歌山県議会議事堂、ねごろ歴史資料館の整備を進め、平成 28 年 4 月に両施設がオープンしました。また、平成 29 年 12 月に観光拠点となる道の駅「ねごろ歴史の丘」がグランドオープンしました。
- 観光施設の整備やアクセス道路である京奈和自動車道紀北西道路及び県道泉佐野岩出線の整備、イベントの実施、プロモーション活動等の効果もあり、平成 26 年に 796,955 人であった市内観光客数は令和元年には、1,719,633 人まで増加し、令和元年の目標値であった 150 万人を達成しました。
- 広域観光における地域間連携を図り、近隣市町の魅力的な観光資源をつなぎ、周辺地域一体での回遊性を高めることで、観光客の増加に取り組んでいます。
- 貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町、和歌山市、紀の川市と紀泉地域の広域観光に関する協定を結び、各市町の地域資源を活用した広域観光の推進に取り組んでいます。
- 根来寺の認知度を高め、観光イメージを確立するため、観光協会等と連携のもとパンフレット、ウェブサイト、SNS 等様々な媒体を活用した観光情報発信を強化するとともに、「紀州根来寺かくばん祭り」「花見時の大門ライトアップ」「いわで夏まつり」など恒例イベントを毎年実施し、季節に応じた本市魅力の発信に取り組んでいます。
- 観光産業の活性化を図るため、観光施策については行政主体から民間主体に移行させることが必要です。観光、商工、まちづくりの関係者・団体が集まるプラットフォームの形成を図るなど、多様な主体による連携を構築・強化することで観光振興に向けた活動の活性化に取り組んでいます。
- 新たに整備された観光拠点である道の駅「ねごろ歴史の丘」を活用し、更なる誘客を図るため各地のイベントへの出展や旅行会社訪問によるプロモーションを実施することで、個人観光客及び観光バス等による団体客の取り込みに努めています。
- 観光客数は、令和元年まで順調に伸びてきましたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、観光産業は大きな影響を受けています。感染防止対策を取るとともにウィズコロナ、アフターコロナに向けた観光戦略の検討が必要となります。



岩出市内及び根来地域の年間観光客数 (単位：人)

	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
岩出市内	796,955	1,030,896	1,267,106	1,146,352	1,321,718	1,719,633
根来地域	560,918	778,055	1,022,933	924,164	1,097,662	1,483,257

岩出市内及び根来地域の観光客数 (単位：人)



資料：和歌山県商工観光労働部観光局「観光客動態調査報告書」、市資料



主な取組方針

取組方針 1 広域連携の推進

- 県内広域連携や府県境を越えた周辺市町と協力し、広域的な観光ネットワークの進展に取り組みます。
- 各市町の観光資源をつなぐ周遊ルートの定着と連携イベントの開催に取り組みます。

取組方針 2 観光情報の発信

- 観光協会との連携を図り、市観光イベントの充実と積極的なプロモーション活動により観光イメージの確立と観光PRの強化に努めます。
- 国内外から観光客を呼び込むため、多様な情報伝達手段を活用した効果的な仕組みの構築に取り組みます。

総合戦略による取組

基本戦略 1 人が集う、魅力あるまち

○施策 観光の振興

「岩出に来てよかった。」と思っただけの魅力ある「おもてなし」を構築するため、市独自の事業とともに、根来街道グリーンツーリズム振興協議会、紀の川みち広域観光連絡協議会など周辺市町との広域連携を図りながら、「いわでもよいよい推進事業」として様々な観光事業に取り組みます。

平成 29 年 12 月にグランドオープンした道の駅「ねごろ歴史の丘」を本市の観光拠点として活用するとともに、観光ニーズを分析し、インターネット、SNS 等を活用した誘客宣伝や、旅行会社、メディアとの連携により、観光客への効果的な情報発信に取り組みます。

本市の魅力を知っていただき本市のファンを増やすことで、交流人口・関係人口の増加に取り組みます。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値	
		(令和 7 年度)	(令和 12 年度)
観光、商工に満足している市民の割合	25.8%	45.8%	54.0%
年間観光客数	172 万人 (年間)	200 万人 (年間)	200 万人 (年間)
総合戦略 KPI	根来地域の年間観光客数	148 万人 (年間)	160 万人 (年間)
	道の駅ねごろ歴史の丘への年間バス立ち寄り数	28 台	40 台

SDGs の目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
観光ビジョン	平成 25 年度～

1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのまあるいまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-2-2 観光資源の創出

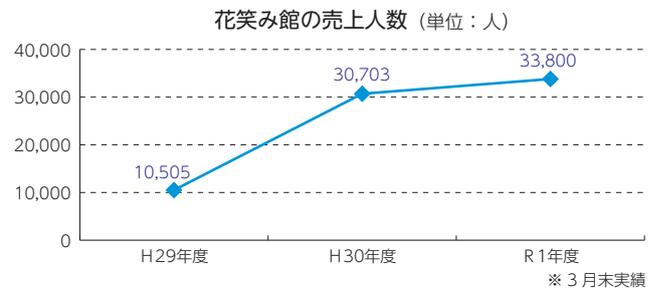
本市の状況

- 根来寺を中心として、春の桜、秋の紅葉など美しい季節の彩を活かした観光PRに努めるとともに、平成28年4月の旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）の移築復原、ねごろ歴史資料館のオープン、平成29年12月の道の駅「ねごろ歴史の丘」のグランドオープン、令和元年9月の根来寺の大伝法堂・大門など6棟の国重要文化財指定、令和2年11月の根来寺遺跡展示施設のオープンなど、新たな観光資源を活かした観光基盤の整備に取り組んでいます。
- 地方創生として、観光振興施策による交流人口の増加に取り組んでいます。観光資源の魅力向上、観光情報の発信、新たな観光資源の創出等を図るため「いわでもよいよ推進事業」の一環として、観光拠点施設の整備を行い、「おもてなし」環境の向上を図るための施設を整備しました。
- 整備した施設を活用して、更なる誘客を図るため、本市の観光イメージを確立し、「根来」のブランド化に取り組むことで、観光地としての知名度を向上させるとともに、地元業者と連携し、観光客の購買意欲を刺激する地域産品やお土産商品を開発することで観光消費の増加に取り組んでいます。
- 外国人旅行者については、誘客促進に取り組むとともに、多言語対応など観光しやすい環境づくりを進める必要があります。
- 根来地域を周遊できるモデルルートを策定し、地域内に点在する歴史的建造物等の概要や場所を説明する観光案内板を根来のイメージに基づき統一して整備することで、観光地としての利便性と魅力向上のための取組を進めています。
- 根来寺という素晴らしい観光資源があり、観光拠点施設が整備されたことで、立ち寄る観光客数は増加していますが、観光消費は伸び悩んでいます。観光に必要な素材として「食」は大きな要素であることから、市オリジナルのグルメ商品の開発を行い、観光消費の拡大に取り組んでいます。
- 観光ニーズが多様化し旅行形態が変化する中、ここにしかないような体験型の観光が求められています。本市の歴史・文化・食などの観光素材を活かした体験型観光の提供を図ることで、滞在型観光メニューの開発に取り組んでいます。



道の駅「ねごろ歴史の丘」花笑み館の売上人数 (単位：人)

	H29年度	H30年度	R1年度
売上人数	10,505	30,703	33,800



旧和歌山県議会議事堂の利用者数 (単位：人)

	H28年	H29年	H30年	R1年
利用者数	10,328	9,850	14,170	32,727



主な取組方針

取組方針 1 観光基盤の整備

- 観光客を誘致し、観光消費を増加させるため、根来地域を周遊できるモデルルートの方策に取り組みます。
- 根来のイメージに基づいたデザインの観光案内板を設置することで、根来地域の魅力の向上を図ります。
- 本市の歴史・文化・食などの観光素材を活かした体験型観光の提供を図ります。

取組方針 2 観光イメージの確立

- 根来寺を中心とした本市の観光イメージを確立し、広く浸透させることで誘客を図ります。
- 根来のイメージに基づいた、デザインをパンフレット、ウェブサイト等の広報媒体や特産品、お土産のパッケージに使用することで観光イメージの確立とPRに取り組みます。

総合戦略による取組

基本戦略 1 人が集う、魅力あるまち

○施策 新たな観光資源の創出

根来寺を中心とした本市の観光地としてのイメージを統一し広く浸透させることで、県内外からの交流人口を拡大させ、根来のイメージに基づいた商品開発などにより観光消費の促進を図ります。

観光客を誘致し、観光消費を増加させるため、根来地域を周遊できるモデルルートの方策を策定し、ツアー企画の造成、旅行会社へのプロモーションに取り組みます。

観光に必要な素材として「食」は大きな要素であることから、市オリジナル商品等、新しい観光資源の開発に取り組みます。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値		
		(令和7年度)	(令和12年度)	
特産品の開発に満足している市民の割合	26.2%	46.2%	54.5%	
根来のイメージに基づいた商品数	0件	5件	10件	
根来のイメージに基づいた案内板設置数	0カ所	10カ所	10カ所	
総合戦略 KPI	道の駅「ねごろ歴史の丘」 花笑み館の年間売上人数	33,800人	50,000人	50,000人
	道の駅「ねごろ歴史の丘」 花笑み館の新規雇用者数(累計)	8人	10人	10人
	「根来」のブランド化に関する 産品開発事業者数	0件	5件	5件

SDGsの目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
観光ビジョン	平成25年度～

1 住んでよかったです
思えるまちづくり

2 安全で安心して
暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれる
まちづくり

4 元気で健康な
まちづくり

5 にぎわいと
輝きのまちづくり

将来を見据えた持続可能な行政運営

5-3-1 文化遺産の保護・活用

本市の状況

第5章 にぎわいと輝きのあるまはげのまち

- 地域住民の減少や少子高齢化などにより文化遺産の保護・伝承が困難になることが懸念されることから、文化遺産の調査研究を行い、その継承に取り組んでいます。
- 地域の文化遺産を公開するために、調査で得られた資料を適切に保存・整理するとともに、令和元年に国の重要文化財に指定された根来寺建造物（6棟）や、令和2年に認定された日本遺産の「葛城修験」など新たに指定・認定された文化遺産を活用し、市民のふるさと意識の高揚と観光振興に努めています。
- 国指定「史跡根来寺境内」に所在する文化遺産を保護するため、『史跡根来寺境内保存管理計画書』に基づき、根来寺境内とその周辺の適切な保全・管理に取り組んでいます。
- 埋蔵文化財包蔵地での土木工事については、関係機関と連携を図り、必要に応じて確認調査、工事立会を行い、埋蔵文化財が確認された場合には、記録保存のための発掘調査を行うことで適切な保護資料の作成に努めています。
- 市内における文化遺産の悉皆調査に取り組んでおり、未指定文化財を調査し、必要なデータを収集・整理し、保護資料を作成することで、文化遺産の状況把握に努めています。
- 市内に所在する文化遺産の保護・活用を図るため、文化遺産の所有者や管理者と連携を図り、文化遺産の状況の確認を定期的に行うことで適切な維持管理に取り組んでいます。
- 指定文化財の所有者及び管理者に対して、指定文化財の維持・管理及び修理のために必要な経費の一部を補助するなど、適切な指定文化財の保護に努めています。
- 「史跡根来寺境内」のガイダンス施設である「ねごろ歴史資料館」では、根来寺遺跡から出土した考古資料を展示しています。また、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）の移築復原に伴う発掘調査で検出された遺構・遺物の一部は、令和2年11月にグランドオープンした「根来寺遺跡展示施設」で精巧に再現展示を行い、根来寺の文化遺産を観光資源として活用しています。



ねごろ歴史資料館の利用者数 (単位：人)

	H 28 年	H 29 年	H 30 年	R 1 年
利用者数	8,151	12,607	20,910	14,769

ねごろ歴史資料館の利用者数 (単位：人)



- 道の駅「ねごろ歴史の丘」に移築復原された旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）を公開しており、現存最古の木造和風意匠の貴重な建造物を利用して、講演会や学習会などの事業を行っています。

主な取組方針

取組方針 1 文化遺産の調査研究と保護・活用

- 「史跡根来寺境内」の文化遺産については、関係機関と連携を図り、保全・活用に取り組みます。
- 市内の文化遺産を調査研究することにより、関係機関などと基礎情報の共有化を図ります。
- 文化遺産については、周辺環境も含めた保護と活用に努めます。

取組方針 2 文化遺産の公開

- 「ねごろ歴史資料館」において、「史跡根来寺境内」における埋蔵文化財等の考古資料を公開することで、根来寺の文化遺産の理解を深めてもらい、地域の魅力の向上を図ります。
- 地域の文化遺産をもってふるさとに対する関心と愛着心を喚起し、ふるさとに対する意識の高揚に努めます。

総合戦略による取組

基本戦略 1 人が集う、魅力あるまち

○施策 文化遺産の保護・活用

根来に所在する「ねごろ歴史資料館」「根来寺遺跡展示施設」「旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）」「岩出市民俗資料館」等の施設において、文化遺産の保護・活用を図ることで、観光資源として誘客に取り組みます。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値		
		(令和7年度)	(令和12年度)	
文化財等の保護と活用に満足している市民の割合	70.2%	80.8%	84.4%	
総合戦略 KPI	ねごろ歴史資料館の年間利用者数	14,769 人 (年間)	16,300 人 (年間)	16,300 人 (年間)
	旧和歌山県議会議事堂の年間利用者数	32,727 人 (年間)	36,000 人 (年間)	36,000 人 (年間)

SDGsの目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
教育振興基本計画（教育大綱）	令和3年度～令和7年度
生涯学習振興計画	令和3年度～令和7年度
史跡根来寺境内保存管理計画書	平成25年度～

1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのあるまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-3-2 歴史・伝統文化の振興

本市の状況

- 本市で生まれ、保存・伝承されてきた行事や伝統文化も、地域住民の減少や少子高齢化等の影響により維持・存続が難しくなっています。これらを未来へ継承するために、伝統文化等の保存と活用を積極的に進め、ふるさとに誇りと愛着を持てる「人づくり」に取り組んでいます。
- 江戸時代から唄い始められたと推考される「根来の子守唄」は、歌詞も根来寺に関連のあるものが多く、その歴史が語り継がれています。この大切な伝統文化を後世に残すため「根来の子守唄保存会」の活動を支援し、伝統文化の保存と継承者の育成に取り組んでいます。
- 根来塗漆器は、根来寺の衆徒が寺内で使用するために製作した仏具や食器類の朱塗器が根来塗の起こりと言われていています。本市の歴史・文化を伝える民俗資料館では、貴重な漆器である根来塗への理解と関心を深めていただくとともに、根来塗を知ってもらう取組の一つとして、収集した根来塗漆器を展示しています。
- 特色ある民俗資料館として、根来塗漆器の収集資料品展や根来寺との連携による根来寺関連宝物展などの展覧事業に取り組み、PR方法の工夫や展示内容の充実を図り、歴史・伝統文化の振興に取り組んでいます。
- 貴重な漆器である根来塗の技術を後世に伝えるために、根来塗講座を開設し、人材育成と伝統文化の継承に取り組んでいます。
- 民俗資料館は、本市の歴史・文化・自然といった地域文化の情報や学びを市民及び本市を訪れる多くの方に提供するための拠点施設としての役割を担っており、常設展示室の改修や施設の老朽化に伴う改修など施設の整備や資料館サービスの向上を図るとともに、市ウェブサイトやメディアを活用した広報サービスを行うことで施設利用の促進に取り組んでいます。
- 民俗資料館は、生涯学習・郷土学習の拠点施設として、市民や次代を担う児童・生徒が郷土の歴史・伝統文化に関心をもち、理解を深めることができるよう、歴史講座や歴史学習会等を開催するとともに学校における「郷土学習」の支援に努めています。
- 大阪府内からの玄関口に位置する、根来寺、道の駅「ねごろ歴史の丘」、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）、和歌山県植物公園緑花センター、根来山げんきの森、近畿大学生物理工学部、民俗資料館、岩出図書館を文化文教ゾーンと位置づけ、歴史的文化資源や豊かな自然と連携し、本市の観光拠点として活用に取り組んでいます。



民俗資料館年間利用者数 (単位：人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
利用者数	39,148	39,795	40,018	40,034	40,087	43,967



※ 3月末実績



主な取組方針

取組方針 1 歴史・文化資源の活用

- 地域住民が文化遺産を大切に、「ふるさと岩出」に愛着と誇りが持てるよう歴史・伝統文化の振興に努めます。
- 講演会や歴史講座、歴史学習会を開催することで、郷土の歴史や成り立ちについて学べる機会を提供します。
- 民俗資料館では、歴史・文化などの地域情報の提供を行うため、施設整備や資料収集の充実に取り組みます。

取組方針 2 伝統文化の継承

- 本市の伝統文化である「根来の子守唄」や「根来塗」を後世に伝えるため、保存・継承活動を支援します。
- 伝統文化を未来に伝えるため、幅広く市民に周知し、伝統文化を継承する担い手を育みます。

取組方針 3 文化文教ゾーンの活性化

- 根来寺を中心とする地域の利用促進及び観光振興を図るため、文化文教ゾーンの関係機関が連携し、合同でのイベント開催や相互 PR に取り組みます。

総合戦略による取組

基本戦略 1 人が集う、魅力あるまち

○施策 ふるさと意識の醸成

本市の歴史や特性、本市を誇りに思える「郷土学習」や小学生低学年から「市民憲章」に触れ合う等、様々な機会を通じて「ふるさと意識の醸成」に努め、本市への定住意識の向上を図ります。

本市には、「根来の子守唄」や「根来塗」等、様々な伝統文化が継承されており、多くの市民により保存・継承活動が続けられていることから、責任を持って後世に伝えていく必要があります。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値	
		(令和7年度)	(令和12年度)
根来塗講座受講生数	43人	45人	50人
民俗資料館の年間利用者数	43,967人	44,500人	45,000人
総合戦略 KPI 歴史講座参加人数	164人	170人	180人

SDGsの目標との関連



関連する個別計画

計画名	計画期間
教育振興基本計画（教育大綱）	令和3年度～令和7年度
生涯学習振興計画	令和3年度～令和7年度

1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのまあるいまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

5-3-3 国際化の推進

本市の状況

第5章 にぎわいと輝きのあるまちづくり

- 社会経済や文化のグローバル化、ボーダレス化の進展とともに、市民の国際感覚の醸成や異文化交流など、国際理解や国際交流の推進に向けた取組を進める必要があります。
- 近年、訪日外国人旅行者や外国人労働者が増加する中、日常生活において市民と外国人が関わる機会も増えてきます。国籍や民族等に関わらず、お互いを認め合い暮らしやすいまちづくりに取り組む必要があります。
- 外国人住民が地域社会で生きていくためには、お互いの文化や宗教の違いを理解するとともに、日本語でコミュニケーションが図れるよう、日本語教育に取り組む必要があります。
- 県立那賀高等学校への留学外国人のホームステイ受け入れを支援するため、国際交流活動ボランティア名簿への登録を推進しています。
- 国際交流活動ボランティアについては、ホームステイの受け入れを通じ、国際感覚を高め、知識、生活、文化を学ぶ機会として、県立那賀高等学校との連携を図り、受け入れ体制の充実に努めています。
- 国際交流の推進として、国際協力機構などで実施されている青年海外派遣事業の広報に取り組むとともに、県や民間団体などの国際交流活動の情報提供に努めています。
- 公民館教室や放課後子ども教室による外国語教室に加え、市ウェブサイト、パンフレット、サイン表示など、多言語化に対応した情報発信媒体の整備に努めています。
- 身近な地域社会でも異文化に接する機会が増えることから、地域に暮らすすべての人が多様な価値観を認め合いながら、支え合い、ともに地域づくりをしていく「多文化共生社会」を実現するため、国籍や民族の違いを超えた人権意識の醸成への啓発や、お互いの文化や習慣等を理解し、尊重しあう機会づくりに取り組む必要があります。
- 各小中学校においては、JET プログラムを活用し、外国語指導助手（ALT）による外国語教育と国際理解を深めるための教育を充実させることで、国際感覚の醸成や多文化共生の推進に取り組んでいます。

ホームステイ助成件数 (単位:件)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
助成件数	17	3	22	12	21	9

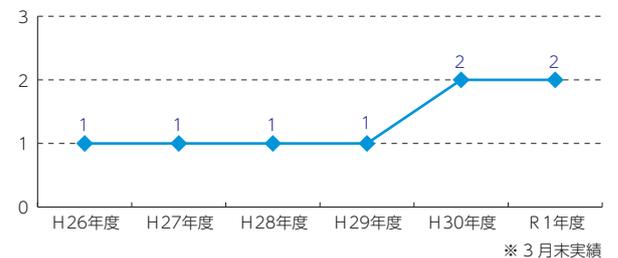
ホームステイ助成件数 (単位:件)



外国語指導助手（ALT）の人数 (単位:人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
ALT 採用人数	1	1	1	1	2	2

外国語指導助手（ALT）の採用人数 (単位:人)



主な取組方針

取組方針 1 国際交流活動の推進

- 留学生のホームステイ受け入れなど、青少年の国際交流を推進するとともに、教育、文化、産業など、様々な分野での国際交流の推進に努めます。
- 国際交流活動に携わる団体等を支援するとともに、市民の国際交流活動への参加を促進します。

取組方針 2 多文化共生の推進

- 市民団体等の活動を支援しながら、外国人住民のニーズに合った日本語学習の機会提供に努めます。
- 地域社会の中で外国人住民が安心して暮らせるための環境整備や交流機会の充実に努めます。
- 外国語指導助手（ALT）の授業等により、次代を担う小中学生の多様な文化や価値観への理解を促進します。

総合戦略による取組

基本戦略 1 人が集う、魅力あるまち

○施策 多文化共生社会の推進

国際交流の推進により、外国文化に対する市民の理解を深め、多文化共生社会の推進に取り組みます。未来を担う小中学生の外国語教育の充実及び国際交流の促進を図るため、外国語指導助手（ALT）による授業を実施します。

成果指標

●まちづくり指標

	現状値 (令和元年度)	目標値	
		(令和7年度)	(令和12年度)
国際交流の強化に満足している市民の割合	27.4%	60.6%	69.8%
ホームステイ助成件数	9件	20件	30件
総合戦略 KPI 外国語指導助手 (ALT) の採用人数	2人	3人	4人

SDGsの目標との関連



1 住んでよかったと思えるまちづくり

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

3 笑顔あふれるまちづくり

4 元気で健康なまちづくり

5 にぎわいと輝きのあるまちづくり

将来を見据えた持続可能な行財政運営

